

## 「ハイデルベルク・ストラスブル派遣 参加報告書」

京都大学文学研究科修士1年 吉田絵弥

ハイデルベルク大学アジア・ヨーロッパ研究クラスターについて、職員の方に聞かせていただいた話（報告者の報告担当部分）を中心に報告する。

クラスターを訪問し、まず建物のツアーに参加した。会議室、研究室、オフィスを訪問したが、どこも新しくきれいだった。その後、クラスターに関する詳しい説明を聞いた。クラスターは、2007年に設立されて、国際連携・若手研究者の養成・学際研究といった目的をもっている。4つのリサーチ・エリア（RA）があり、(A)Governance & Administration、(B)Public Spheres、(C)Knowledge Systems、(D)Historicities & Heritage となっている。学生はこのいずれかに所属する。

説明の後、クラスターのコーディネーター（職員）の方にお話を聞かせていただく機会があった。その方は以前はクラスターの博士課程に在籍していて、現在は教員ならびに学生のための Study Program のコーディネートを担当している。学生に対しては、研究・勉強の計画や単位の取り方に関する相談業務を行っている。

まず、ハイデルベルク大学での学生生活について聞いた。学生が住むのはアパート、学生寮、シェアハウスなどで、物価の高さから学生寮が人気だ。ハイデルベルクは外国人と学生が多く、ベルリンなど大都市と比べると街が小さいため、留学生にとって慣れやすく住みやすい街である。また、ヨーロッパの中心に位置し、フランクフルト国際空港まで1時間ほどであるため、国内・国外へのアクセスもいい。

1セメスターに受講する授業は4~5クラス程で、数は多くないが、授業外の課題が多く、また term paper（学期レポート）も書かなければならないので、毎日勉強で忙しい。さらに同時に研究を自主的に進めることになる。クラスターではほとんどの学生が真剣に学問に取り組んでいる。

クラスターは学際的で研究分野も多様である。報告者の専門が社会学のため、フィールドワークなど経験的研究についてはどうかとたずねたが、経験的研究については教授・学生ともに少ないそうだ。二次資料を収集して分析するということはあるが、自分でフィールドに行き調査をしている人はあまりいないとのことだった。

また、留学生がドイツ語を学ぶことはできるか聞いた。クラスターの授業は英語で行われるため、自動的にドイツ語を学べるわけではなく、自主的に取り組む必要がある。しかし、ドイツ語の授業を受講したり、日常生活でドイツ語を使用するなど、学ぶ機会は多いという。

訪問では、コーディネーターの方以外に、クラスターに在籍する学生とも交流した。ドイツ出身、ウクライナ出身、中国出身、トルコ系ドイツ人など、学生の国籍や背景はさまざま、クラスターではグローバルな視野をもって勉強・研究に取り組むことができる。報告者は学部生の頃からドイツ語とドイツ社会に関する勉強を続けており、ドイツへの留学を希望しているため、今回の派遣でハイデルベルク大学について詳しく知ることができたことは自身にとって大変有意義だった。また、交流を通じて、ハイデルベルク大学の学生や職員の方に、京都大学について伝えることもできた。その他、社会や生活一般について話す機会もあり勉強になった。

今後も報告会、留学生のサポート、留学などを通じて、京都大学とハイデルベルク大学の関係のために役に立てたらと思います。今回はこのような貴重な機会をいただきありがとうございました。